

個性の自立を《補い》 《高める》学生支援

— 発達障害にも対応できる人間力向上プログラム —

信州大学

高橋知音・中村晃子・金子 功



個性の自立を《補い》《高める》学生支援
— 発達障害にも対応できる人間力向上プログラム —



< 高める支援 >

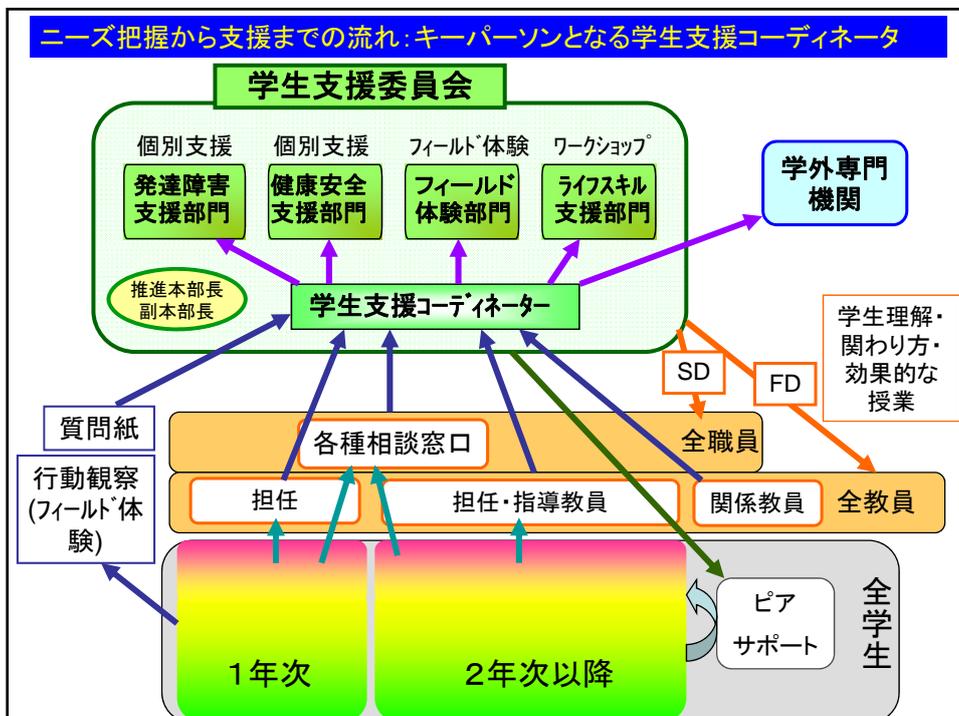
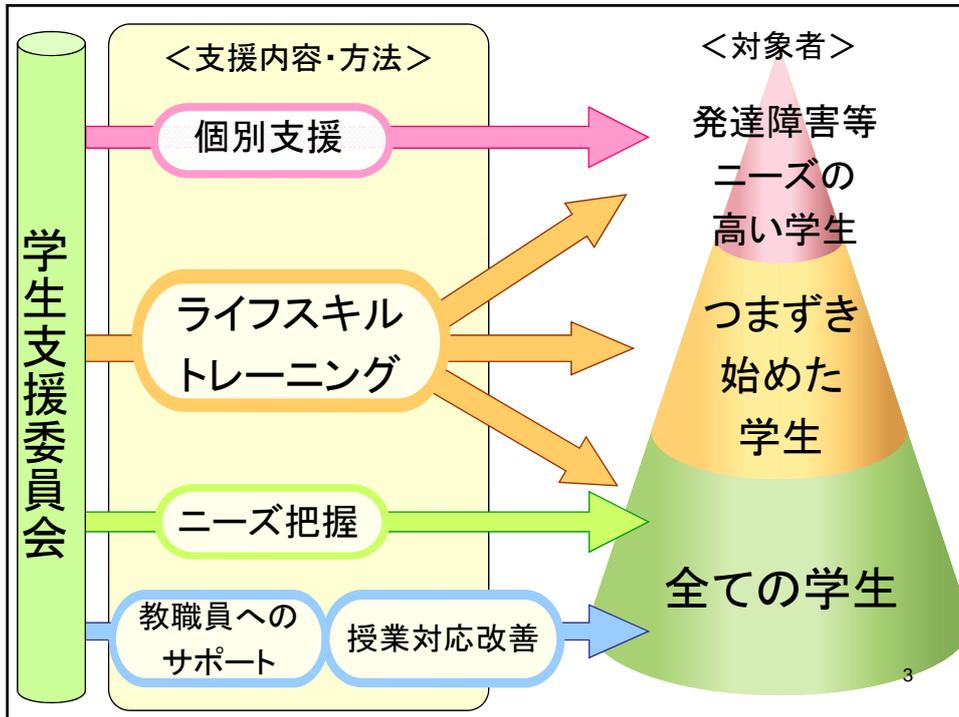
- ・ 社会人としてのライフスキルを高めたいというニーズを持つ学生に、フィールド体験、ワークショップ等を提供

< 補う支援 >

- ・ 発達障害等、支援ニーズが高い学生を、すべての学生を対象とした支援プログラムの枠組みの中でサポート

すべての学生が学びやすい大学、すべての学生が自分を高める機会を得られる大学

→ 高等教育のユニバーサルデザイン化



学生支援コーディネーターの業務

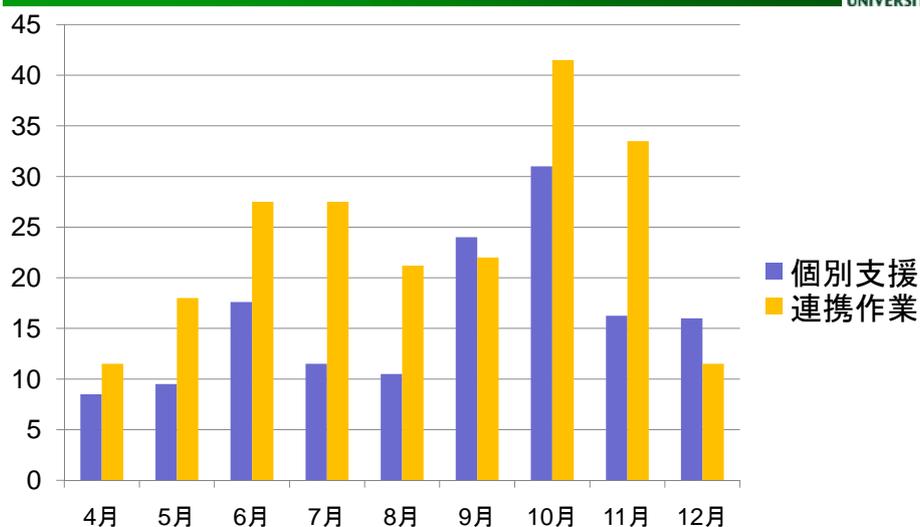


- 支援ニーズのある学生を適切な支援に結びつける**コーディネーション**業務
- **アセスメント**の実施(報告書の作成)
- **個別支援計画**の作成(ケース会議で検討)
- 関係教職員への**配慮要請**、**コンサルテーション**
- 必要に応じて定期的な**個人面接**
- 学生向け**ワークショップ**の企画運営
- **FD・SD**研修会の実施

コーディネーターの業務



時間



信州大学における 発達障害学生支援の特徴



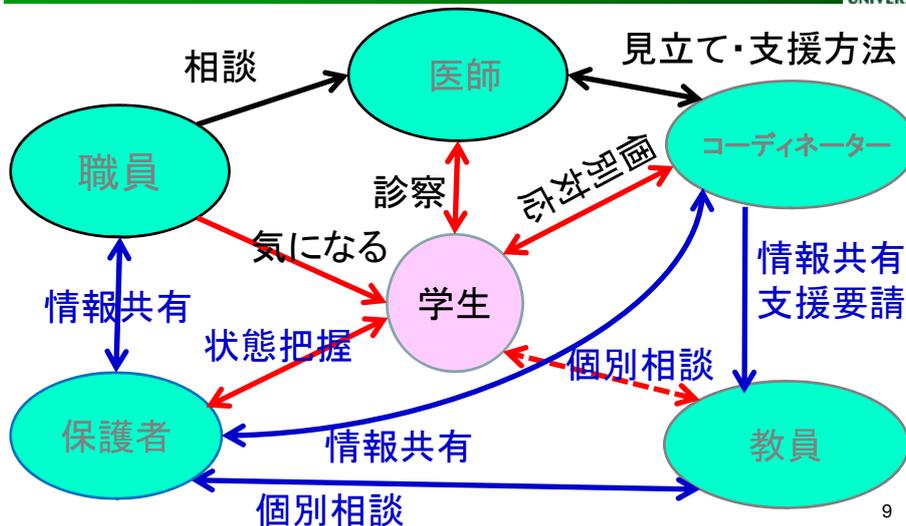
- コーディネーターによる関係教職員の**連携促進と環境調整**
- 多様な方法による**支援ニーズ把握**
 - 発達障害を想定したニーズ把握調査
 - 本人、教員からの申し出
- 診断名によらない、支援ニーズと**認知特性**に応じた支援
- **スキル向上**の場の提供
 - ワークショップ、フィールド体験活動

支援事例



- 支援事例1
- 支援事例2

チームで学生をケアする体制



うまくいっている点



- 支援関係教職員の連携促進
 - 医師、保健師、学生相談カウンセラー、学生支援課職員、キャリア・カウンセラー、指導教員、授業担当教員などが情報共有し協力して支援
 - 必要な支援を整理し、役割分担
 - コーディネーターが調整役
 - 発達障害以外の問題にも対応

うまくいっている点



- 支援体制を作りやすい構成メンバー
 - GP推進本部長は教学担当理事
 - 副本部長は副学長経験者
 - 新規採用の学生支援課長
 - コーディネーターは常勤の発達障害に詳しい臨床心理士

- 教育職員、事務系職員の協働体制
- 「権威」をうまく利用する

うまくいっている点



- 定期的な事例検討会の開催
 - 医師、カウンセラー、コーディネーター、心理学教員による事例検討
 - アセスメントの結果報告
 - 支援計画の検討
 - 支援の評価
 - うまくいっていなければ「次の一手」をみんなで考える

課題



- 専門領域における学習支援
- 教職員全体の理解促進
 - コーディネーターに支援を丸投げするのではなく、学生に日常的に関わる教職員の支援力向上
- 支援ニーズの低い学生をどう支援につなげるか

今後の展開



- ホームページによる情報発信
 - e-Learningコンテンツの作成
- 社会性・コミュニケーションの苦手さに関する支援ニーズ把握質問紙の開発
- 不注意傾向、自己管理の困難に関する支援ニーズ把握質問紙の開発
- ピア・サポート、自助グループ、小グループによるスキル訓練の展開